アスリートに学ぶビジネス成功への軌跡（第13回）

車いすテニス 国枝慎吾、王者陥落後に見せた真価

2019.07.25

それは錦織圭選手が世界のテニス界で活躍を始める前のことだった。

ある日本の記者が、インタビューの中でテニス界のトップに君臨していたロジャー・フェデラー選手に「なぜ、日本のテニス界には世界的な選手が出てこないのか」と質問した。

するとフェデラー選手は「何を言っているんだ君は？日本には国枝慎吾がいるじゃないか」と返したとされる。国枝選手は2000年代前半から、車いすテニスで世界を舞台に目覚ましい活躍を見せていた。



車いすテニスとは車いすに乗って行う障がい者スポーツの1つ。2バウンドでの返球が認められている以外、ルールはテニスと変わらない。1988年のソウルパラリンピックで公開競技となり、1992年のバルセロナパラリンピックから正式競技として行われている。2000年代、テニスの4大大会（グランドスラム）に車いすテニス部門が相次いで創設され、それぞれ大会の開催期間中に同一会場で公式に試合が行われるようになった。

フェデラー選手が同じテニスプレーヤーとして車いすテニスの国枝選手を意識し、尊敬の念を抱いていることは別のインタビューで話した内容からもうかがえる。

2007年、フェデラー選手がウィンブルドン選手権で5連覇を成し遂げた際、年間グランドスラムをいつ実現できると思うかという質問に次のように答えている。

「ぼくより国枝のほうが近い」と。

実際に国枝選手はその年に男子車いすテニス史上初の年間グランドスラムを達成してみせた。

国枝選手のラケットには「オレが最強だ！」と書かれたテープが貼ってあるという。その戦績は、まさに最強プレーヤーとしての記録だといえるだろう。

国枝選手は、2015年終了時点の車いすテニスで、男子シングルス優勝20回、男子ダブルス優勝19回の偉業を達成。年間グランドスラムは、2007年を皮切りに計5回記録している。パラリンピックでも2004年のアテネ大会以降、男子シングルスとダブルスで3つの金メダル、2つの銅メダルを手中にしてみせた。

王座を去っても変わることのない意欲… 続きを読む